

大阪市委託の 15地域で前年度と同業者 清掃業務落札

大阪市環境事業局が発注した、市内20地域の06年度分の道路清掃業務委託をめぐる公募型指名競争入札で、15地域で05年度分と同じ業者が落札していたことが28日、分かった。05年度に指名競争入札から、より多くの業者に門戸を開く公募型に変更したが、平均落札率

は94%台と高いままで、競争原理が働かない実態が明らかになった。

この日の市議会財政総務委員会で辻義隆氏（公明）が指摘。同局は改善に向け、「多角的に検討する」と答弁した。

同局によると、同業務は幹線道路の清掃や歩道の除草など。市内を20地域に分け、地域ごとに入札し、06年度分の落札額は2950万〜7250万円だった。

各地域の入札には05年度分は20〜31社、06年度分は18〜28社が参加した。平均落札率は05年度が94・85%。06年度は94・89%で、落札率が99%のケースもあったとい

う。辻氏は「落札率が高止まり傾向なうえ、大半の地域で同一業者が落札するのはおかしい」と、入札の改善を求めた。

（諸星晃一）

落札業者 15地区で同じ

大阪市環境事業局が発注する道路清掃業務委託入札で、市内20地区のうち15地区で、

昨年度と今年度の落札業者が同一だったことが28日、明らかになった。それぞれの入札には18〜30もの業者が参加しているのに、落札業者の顔ぶれがほとんど変わらない不自然な状況。平均の落札率も約95%と高止まりしていた。背景に業者間での調整などが存在する可能性があり、改善を

求める声が出ている。

市議会委員会で、辻義隆市議（公明）が指摘した。同業務は、市内の幹線道路を機械清掃したり、中央分離帯や歩道橋などのゴミ拾い作業をするもの。以前は指名競争入札だったが、05年度から公募型に改めた。落札額は3300万〜7250万円。

今年度の落札業者20社のうち

こりゃおかしいで

複数地区落札もなし

ち、昨年と同じ地区を担当していた業者が15社あった。半面、同じ業者が2地区以上落札したケースは皆無だった。平均落札率は昨年度、今年度ともに約95%に達していた。

指摘を受けた同局の担当者「公募入札でもあり、落札結果だけをみて不正があったとは考えていない」としているが、今後、市は入札方法の改善などの検討を始める方針。

【野原靖】

大半が同じ業者 2年連続の落札

大阪市委託の道路清掃

大阪市発注の道路清掃作業の業務委託を巡る2005、06両年度の入札で、市内20ブロックのうち15ブロックで、それぞれ同じ業者が2年連続で落札していたことが、28日の市議会財政総務委員会で明らかになった。予定価格（発注上限額）に占める落札額の割合を示す落札率の平均は95%と高止まりしている。市は「談合があったとは認識していないが、改善策を検討したい」としている。

清掃作業は、清掃距離や作業効率などで市内を20ブ

ロックに分け、業務委託のための入札を行っている。05年度からは公募型の入札を導入し、各ブロックで約30業者が入札に参加している。

ところが、淀川、鶴見、西淀川・福島（北部）、浪速、東住吉の5ブロックを除く15ブロックで、同じ業者が2年連続で落札。この日の委員会では「約30業者が参加しているのに不自然」として、入札方法の改善を求める意見が出された。